

研究例会報告

〈第405回〉

日時：2025年8月7日(木)19:00～20:30

会場：オンライン（Zoom）で開催

テーマ：オーテピア高知図書館の県独自機能としての市町村立図書館等支援について

発表者：鈴木 章生氏（高知県立図書館）

参加者：42名

高知県立図書館と高知市民図書館が共同運営するオーテピア高知図書館（以下「オーテピア」）の、県独自機能である市町村立図書館等支援の現状や課題等について報告していただいた。

この報告では、最初にオーテピアの概要が紹介され、同館のサービス計画と高知県図書館振興計画（以下「振興計画」）に関する詳しい説明があった。振興計画（H30～R9年度）は図書館振興の基本理念や取り組みの方向性等を示し、県と市町村とが同じベクトルで県内の読書・情報環境の改善等につなげることを目的に策定したものとのことだった。サービス計画は振興計画と連動しており、オーテピアのサービス・取組の一つとして、市町村支援の具体的な内容や方策が示されていると述べられていた。

市町村支援の実施状況については、まず物的支援として、協力貸出や物流サービス（県費による宅配便）、セット図書の貸出、移動図書館に関する説明があった。移動図書館については、県内の図書館整備状況を踏まえ、図書館未設置町村への重点化を図ろうとしており、現在県レベルで実施しているのは高知県と福島県のみになっているとのことだった。

次に人的支援として、巡回訪問や依頼訪問（図書館協議会等の会議出席）、各種研修に関する説明があった。巡回訪問はR6年度に83回実施しており、研修に関しては対象別（初任者・中堅等）のものや、参加者の移動負担軽減のため、県内を3ブロックに分けて同じ内容で実施しているものなど、市町村のニーズに応じた様々な取り組みが紹介されていた。

その他、地域課題に応じたサービス創出・充実への支援として、オーテピアが提供しているサービスのノウハウを市町村と共有しているとのことだった。

た。具体的には、「趣味・教養・娯楽だけ」の図書館からの脱却や地域の政策課題へのコミットを促すため、地場産業、外国人材、空き家等の関係機関紹介に関するノウハウの共有や、パスファインダーのひな形提供等を行っており、特にひな形提供は市町村からも喜ばれていると述べられていた。

これらの取り組みによる効果として、サービス計画上の指標である県民一人あたりの年間貸出点数や協力貸出点数、市町村立図書館全体の県民一人当たり相互貸借点数等が上昇しているとのことだった。その一方で、人口1人当たりの貸出数や登録率、図書館設置率は全国的に見ると低い水準で、高知県の読書・情報環境は依然として厳しい状況にあるため、図書館振興の必要性が強調されていた。

振興計画と連動した所管行政への働きかけでは、県生涯学習課（図書館担当課）と連携した取り組みが紹介されていた。具体的には、県生涯学習課との月1回程度の打ち合わせや、同課職員と図書館職員による県内市町村への同行訪問、県生涯学習課による「図書館行政」をターゲットとした自治体職員図書館担当者研修等を実施しているとのことだった。

県内市町村における図書館整備等の動向については、H28年以降、5つの自治体で新館が開館しており、現在も複数の自治体で施設整備の準備が進められていると述べられていた。このように、図書館数は着実に増えているものの、県内図書館の実情として、小規模図書館や図書館未設置町村の図書室では、職員数が少ない、資料費が乏しく蔵書も少ないといった状況にあるとのことだった。そのため、従来の知識伝達型の研修よりも、「対人援助」的な視点で悩みを共有して寄り添う、伴走型支援が必要であると述べられていた。実際にR7年7月には「対人援助」を意識した取り組みとして「小規模図書館・図書室のための交流会」を新たに実施し、相互の活動紹介や情報交換等を行ったとのことである。

最後のまとめでは、「図書館の可能性は、課題が大きければ大きいほど高まる」と述べられていた。

（文責 日置将之）